家庭学習応援プログラム

新型コロナウイルス感染拡大に伴う
いじめ未然防止に向けた道徳科の授業について

※　ここに掲載されております動画は、限定公開としております。
動画のアドレスを、SNS 等に投稿しないようお願いいたします。

○　指導における留意点

①　悪いと分かっていても同調してしまったり、自己中心的で公正、公平に接することができなかったりすることは、誰しもがもっている人間の弱さです。道徳科の授業では、これらの、人間の弱さにも向き合い、不安や迷いを抱えながらもそれらを乗り越え、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養います。

②　学校教育全体を通して、偏見による差別やいじめはいけないことだと毅然とした指導を充実させていくことは重要です。しかし、道徳科の授業では、道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為の仕方を指導したりする時間ではなく、偏見による差別やいじめにかかわる道徳的問題を自分事として見つめ、自分の生き方・在り方についての考えを深めていくことが大切です。

③　学級、学校、地域の実態によっては、道徳科の授業で、本教材を扱うことが適さない場合もあります。各校で実態を踏まえ「公正、公平、社会正義」の内容項目の学習を実施してください。

④　偏見による差別やいじめにかかわる問題は家庭との連携が大切です。本教材を道徳科の授業で活用し、授業後の子どもの振り返りを家庭へ伝えたり、家族と一緒に考えたことを基に授業をしたりするなど、様々な方法で発信し、家庭との連携を推進してください。

○　ねらい

新型コロナウイルス感染症にかかわる問題場面に対して、自分との関わりで考え、向き合い、どのようなことが人を傷つけ、偏見による差別やいじめにつながるのか、自分なりの考えをもつことを通して、誰に対しても、公正・公平に接しようとする心情や態度を育てる。

1　中学生向け動画

https://youtu.be/7GU26zDLRpo

なお、当動画の内容、テキスト、画像等の無断転載を固く禁じます。また、各種 SNS、web サイト等への引用を厳禁といたします。

2　資料

次ページへ

外国籍の高校生の話

私は外国籍だが、生まれも育ちも日本だ。生まれつき、肌の色や髪は父に似ている。幼稚園の頃、「一緒にあそぼう」と言うと「日本人じゃないからいっしょにあそばない」と言われた。小学校の頃、間違ったことをした男子を注意すると「うるさい、外人」と言われ、思わず手を出してしまいそうな気持ちになった。そのとき、ある友だちが「外人って、私たちだって他の国に行ったら外人じゃない。そういう言葉、すごく傷つくと思う」と私の代わりに怒ってくれた。今でもその友だちとは一番の親友だ。

医療従事者の SNS の投稿

私は看護師をしています。私が勤める病院は、新型コロナウイルス感染症にも対応する病院です。私は小児科のため、感染した患者さんと直接関わることはないのですが、病院では感染予防のために精一杯の努力をしています。私には、３歳の娘がいますが、感染しないようにできることは全てやっています。しかし、保育園からは「医療従事者のお子さんは預かれません」と言われてしまいました。検温も健康管理も、念には念を入れています。それでも、断られてしまいました。

学校の近くに家族できりもりしている、スーパーがある。店員さんはとても親切で、部活帰りには「お疲れ様」と声をかけてくれたり、練習試合の時には、「がんばれ。」と応援してくれたりするほど。ある時、そのスーパーが「新型コロナウイルスに感染していた人がよく通っていたスーパーだ」とうわさを聞いた。

休みの日、家族でそのスーパーに買い物に行くことになった。

ある主婦へのインタビュー

緊急事態宣言下で、不要不急の外出が制限される中、通信販売などの宅配業者は通常の何倍もの業務をこなしている。ある主婦は、宅配便を受け取るときに、今までは業者のペンを借りていたが、自分のペンを使うことにした。「感染するかもしれないからということでなく、少しでも手間をとらせないようにしたい」と述べた。

「ごみを集めてくれてありがとう」

Ａ 市では、家庭から出されたゴミ袋に、感謝のメッセージが貼られることが、多く報告されている。ステイホームを合い言葉に、家で過ごすことが多くなった。家庭ゴミは通常以上に増えている状況で、作業員は危険と隣り合わせで努力している。これらの手紙を見て、励まされているようだ。